

【校訓】

すなおに・ただしく・はつらつと・たくましく

【学校教育目標】

なりたい自分を求め、自ら考え判断し、行動する生徒の育成

【目指す生徒像】

- すなおに 明るく、心すなおな生徒
- ただしく 礼儀正しく、思いやりのある生徒
- はつらつと 新たなことに進んで活動する生徒
- たくましく 物事を最後までやり抜く生徒

心が通う「挨拶」 心を伝える「拍手」 心に響く「歌声」

【学校経営の重点キーワード】

「自律と共生」～社会へ踏み出す力づくり～

- ◆自律～PDCAを意識しながら、自ら行動する力
- ◆共生～違いを理解し、共に支え合って生きていく力

特色ある教育活動

- 多様性の尊重
 - ◆「自律」と「共生」を大切にした学校生活
自己決定・自己肯定感・共感的人間関係
- 学ぶ意欲を高める「南中型授業」の推進
 - ◆「直耕タイム」を生かした、考える授業
 - ◆3つの「あ」を大切にした、生徒の声や思いが響き合う授業
- 生徒会活動の充実
 - ◆生徒会テーマ「活躍」を意識した諸活動の推進
- 社会とのつながり、自己の生き方を考える
 - ◆「なりたい自分を求める」社会へ踏み出す力づくり、地域と連携した学校教育

効率的な組織運営

- 組織的な学校運営の確立
- 教師の授業改善
- OJTによる個のスキルアップ
- 教育環境の整備

評価

学校運営 の状況	自己評価Aと 学校運営 委員 評価の 評価区 分	きわめて良好	自己評価B の評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
		良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
		概ね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
		やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
		努力を要する		1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

生徒の 状況	自己評価Aと 学校運営 委員 評価の 評価区 分	きわめて良好	自己評価B の評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
		良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
		概ね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
		やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
		努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

I 思いやりの心, たくましい心

生徒の状況	自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント	
互いを認め合い、切磋琢磨しながら自らの生き方を考え、豊かな人間性を育てている。	前期	概ね良好	概ね良好	「お互いのよさを認め合いながら、協力してよい学級をつくろうと努力できた」の生徒自己評価の高さが際立つ。リーダーを育てながらも他の生徒一人一人も活躍できる場をつくってほしい。生徒会の「あいさつ強化運動」の成果は保護者も感じることができた。体育祭の様子等から、学年を越えた「思いやり」を感じた。後期にも期待したい。
	年度	概ね良好	概ね良好	キャリア講話やボランティアなど、南中学校ならではの活動が生徒の満足感につながっている。これからも、行事や生徒会活動を通じて、生徒同士の関わりの中で主体性を伸ばして欲しい。

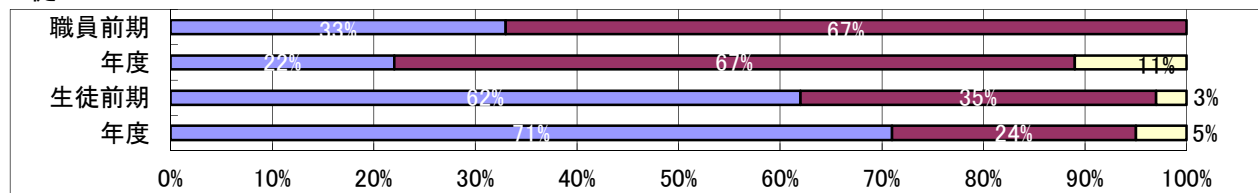
の自己改善策の概要と学校

【前期(→年度)】
 ほぼ全ての項目で前年度より数値が上がっている。特に、自己の生き方を主体的に考えるための進路学習の項目で、教師、生徒の数値が大きく向上した。今後も、適切な進路情報の提供や進路学習会を継続していきたい。生徒会活動では、今年度から行っている「委員長による呼びかけを中心とした生徒朝会」が、全校の意識を高め、共通理解のもとで活動していくために効果的である。また、リーダーを育てるよい場面にもなっている。執行部で取り組んだあいさつ強化運動は、全校のあいさつへの意識を高めることにもつながった。今後も、生徒一人一人が活躍し、互いに認め合える場を仕組みたい。

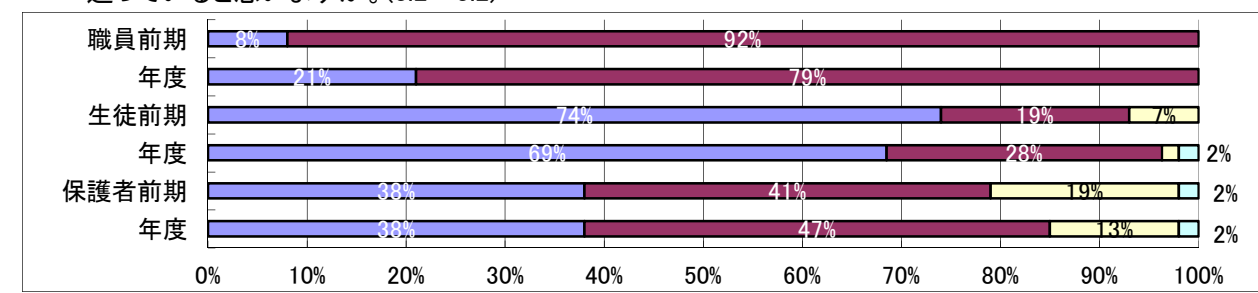
【年度(→次年度)】
 行事等を通して自己有用感を実感できたが、日常的に生徒同士が関わりあって認め合う場面の設定が必要である。短学活を利用して構成的グループエンカウンターやルール作りなどを行えるようにしていきたい。キャリア講話やチャレンジ55+など職業について考える機会の充実、生徒の満足感につながった。継続して学活での進路学習を充実させ、より具体的に将来について考えられるようにしたい。生徒による自主的、自治的な活動のためには、教師の計画と共通理解による指導が必要不可欠である。そのため、生徒会組織づくりや行事の要項は見直しをもって早めに出すように声をかけていく。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1より良い集団生活を目指す学級活動・生徒会活動	(1)自主的・自治的な学級づくり	短学活や話し合い活動の充実、「読み手」を意識した教室環境づくり	3	3
	(2)スローガンを意識した生徒会活動	スローガン「あいさつ・拍手」、生徒会テーマ「活躍」を意識した生徒主体の活動の推進		
2 自己の生き方の探求	(3)望ましい勤労観・職業観等の育成	進路学習、キャリア講話等の実施、各高校の情報提供、進路通信の発行	4	4

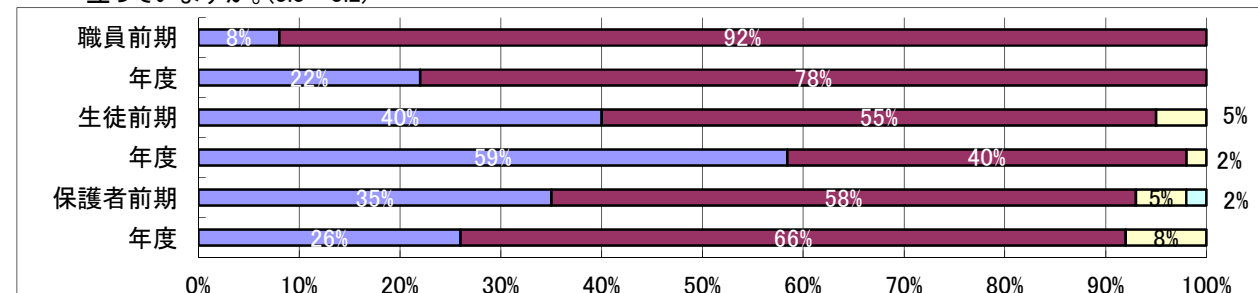
(1)に関するデータ
 職員：生徒指導の3機能(自己存在感・自己決定・共感的理解)や3つの「み」を生かした子どもとの関わりや学級経営ができていますか。(3.3→3.1)
 生徒：「違いを理解し、共に支え合って」お互いのよさを認め合いながら、協力してよい学級をつくろうと努力できましたか。(3.6→3.7)



(2)に関するデータ
 職員：生徒会テーマを意識させながら、生徒による自主的、自治的な活動が行われるように支援していますか。(3.1→3.2)
 生徒：「南中スローガン」(あいさつ・拍手・歌声)を意識した学校生活を送っていますか。(3.7→3.6)
 保護者：お父さんは、「南中スローガン」(あいさつ・拍手・歌声)の一つである「あいさつ」を意識した学校生活を送っていると思いますか。(3.2→3.2)



(3)に関するデータ
 職員：生徒が自らの進路や生き方を主体的に考えるための進路学習(進路通信、キャリア講話等)が行われていますか。(3.1→3.2)
 生徒：進路学習(進路通信「羅針盤」や進路コーナー、キャリア講話など)は、自己の生き方の探求に役立っていますか。(3.3→3.6)
 保護者：進路学習(進路通信「羅針盤」や進路コーナー、キャリア講話など)は、お子さんが将来の生き方を考えることに役立っていますか。(3.3→3.2)



■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない

II 自主的・自律的な生活、望ましい生活習慣

生徒の状況	自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
自主・自律した生活習慣を身に付け、健康・安全で規律ある生活を送ろうとしている。	前期 概ね良好	概ね良好	服装ルールについての生徒主体の活動など大変よい取組が多く見られる。思春期特有の悩みについては、先生方が当事者の話をよく聞き改善・解決につながるよう関わってくれている。より健全な生活習慣のためにはメディアコントロールが課題となっているので、根気強く啓発し続けながら、学活で取り上げる、PTAで話題にする、など後期の具体的な取組に期待し
	年度 概ね良好	概ね良好	生徒・保護者と職員間の意識の乖離が目立った。しかし、生徒は自主的・自律的な生活を目指そうという意識はあり、また、保護者も生徒指導に満足している傾向にある。今後は、メディアコントロールも含め、目指す生徒の姿を具体的な指標で示し、よりよい生活を目指してほしい。

学 校 己 の 評 改 価 善 の 策 概 要 と	【前期(→年度)】
	専門委員会主導でフォーサイトのよい活用の仕方が紹介され、それを見て参考にしたり、刺激を受けたりしている生徒もいた。このような機会を定期的にもっていききたい。生徒自身の口から「フォーサイトを活用する」を引き出していく。メディアコントロールについては、昨年同様、学校の啓発的取組が生徒や保護者に浸透しているとはいえない状況である。たとえば授業参観の際などに家庭でのルール策定をする機会を設定し、生徒や保護者の意識を高めることなども考えてみたい。
	【次期(→次年度)】
	全体を通して、前期よりも保護者と生徒のポジティブ回答が増え、数値は改善された。一方で、教職員の評価は微減となっており、保護者や生徒との意識の乖離も見られる。生徒と保護者は成長を感じてはいるものの、教職員は目指している姿にまだ到達していないと捉えている。「自律」と「共生」にむけて、職員間でのさらなる意識の共有化と、生徒に対しても具体的な行動指標を提示していくことが重要となると考えられる。

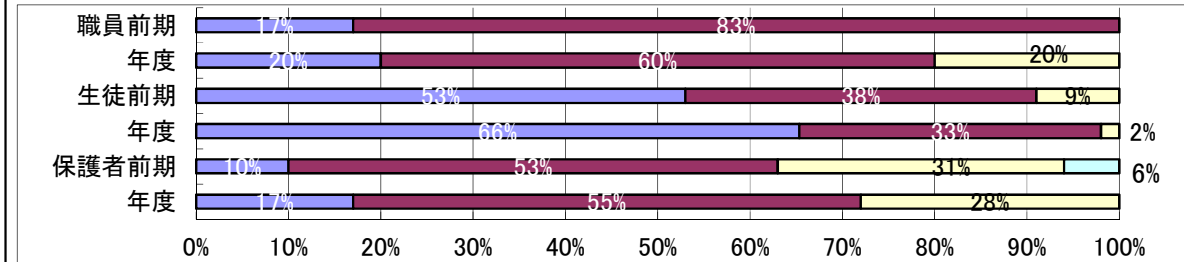
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期/年度
3安全で規律ある学校生活	(4)自律に向けた生活指導及び安全教育的の充実	PDCAサイクルを意識した学校生活の推進、規律ある部活動を促進するキャプテン会議の実施 交通安全教室や安全点検の実施、実践的な避難訓練等の実施	3 3
4生徒理解・生徒支援	(5)日常的・積極的な教育相談と支援の共通理解	「いつでも、どこでも」教育相談の推進、共通理解に基づいた生徒支援 関係機関やスクールカウンセラーの活用、小学校との連携、三者面談	3 3
5心身の健康の保持増進	(6)健全な生活習慣の育成	メディアコントロールの啓発、歯磨き指導、タイムリーな保健だよりの発行 食に関する情報提供、早寝・早起き・朝ごはんの啓発と体力向上の働きかけ	3 3

(4)に関するデータ

職員：「自分で考え判断し、行動する」ことを意識させながら、学校生活を送るための支援を行っていますか。(3.2→3.0)

生徒：あなたは、「自ら考え判断し、行動する」ことを意識した学校生活を送っていますか。(3.4→3.6)

保護者：お子さんは、自分で考え判断し、規律ある生活を送っていると思いますか。(2.7→2.9)

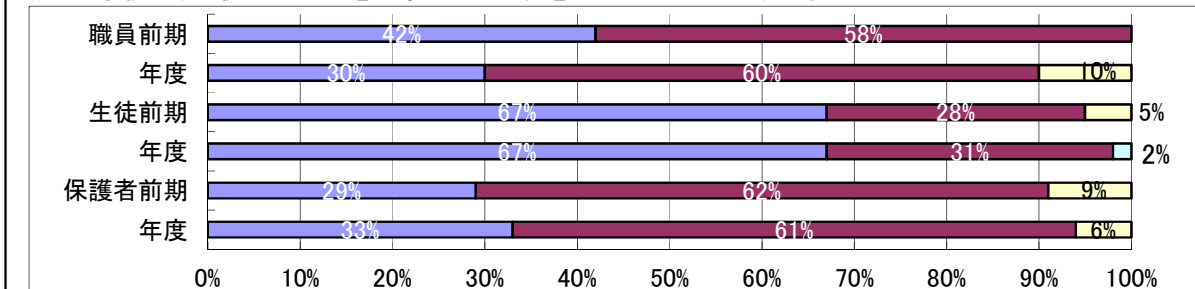


(5)に関するデータ

職員：教育相談の充実や関係機関との連携を図り、いじめ・不登校防止に努力していますか。(3.4→3.2)

生徒：悩み、困りごとを、友達や先生、スクールカウンセラーに相談できる雰囲気や窓口がつけられていると思いますか。(3.6→3.6)

保護者：学校は、生徒一人一人を大事にした取組をしていると思いますか。(3.2→3.3)

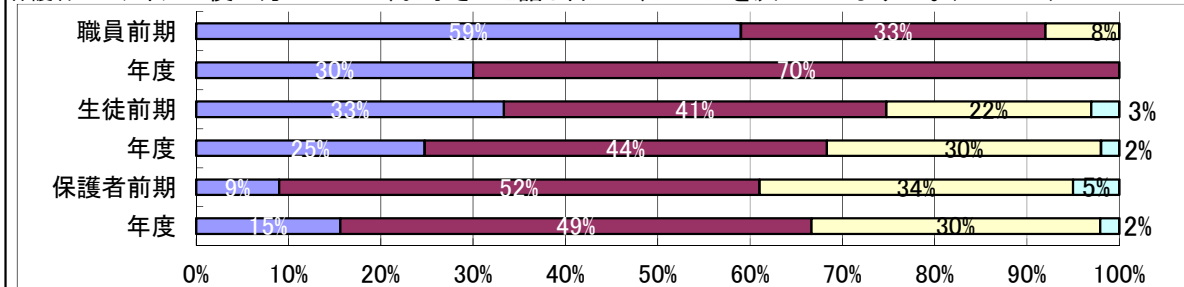


(6)に関するデータ

職員：「メディアコントロール」や「虫歯」等の健康課題についての取組が行われていますか。(3.5→3.3)

生徒：あなたはメディアコントロールを意識した生活ができていますか。(3.0→2.9)

保護者：メディアの使い方について、お子さんと話し合っ、ルールを決めていますか。(2.6→2.8)



■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない

Ⅲ 主体的学習態度・基本的学習習慣

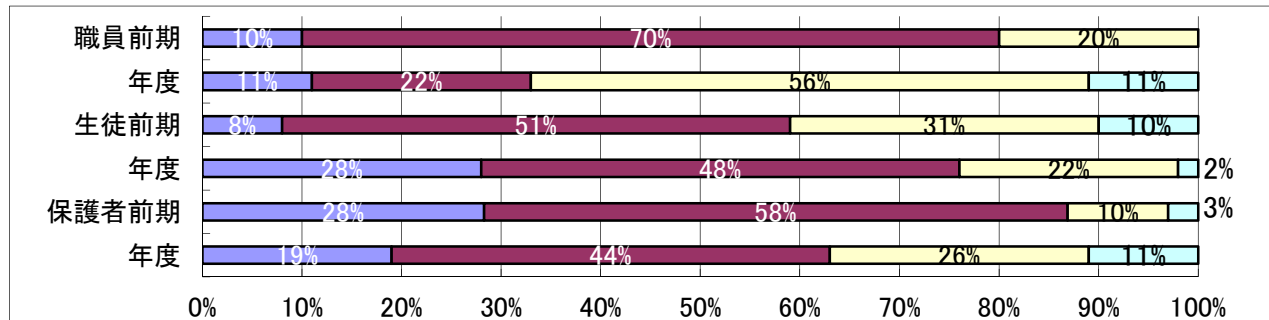
生徒の状況	自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
主体的に授業に臨み、基本的学習習慣を身に付けながら確かな学力を向上させようとしている。	前期	概ね良好	PDCAの評価について職員・生徒と保護者との間にややばらつきがあり、家庭での時間の使い方に改善の余地があるように思える。家庭学習には個人差が見られるようなので、フォーサイトをベースにしながる個々の実態にあった学習を支援し、習慣化を促進してほしい。
	年度	概ね良好	実態に合った家庭学習になっているかという課題がある。PDCAサイクルで主体的に学習を進めるという点では、前期よりも改善が見られたが、職員の目標が高く、これからの取組に期待する。また、直耕タイムの充実に向けて様々な取組がなされているようである。次年度へぜひつなげてほしい。

校 自 己 改 善 策 の 概 要 と 学	【前期(→年度)】
	今年度からの取組である「レベルアップタイム」により、各学年において家庭学習の習慣が付いてきた生徒が増えた。しかし、取組状況には個人差があり、まだまだ基礎・基本的な内容の定着が必要である。2学期は、「南中ドリル」の時間を増やし、対策していく。また、授業における3つの「あ」を意識していくために、9月に教師・生徒同士による「授業を見合う会①」を設定し、発表・発言時の声量や、挙手発表の仕方について考える機会を設ける。道徳の授業では、別業や授業後の板書の写真を全職員で共有して活用したり、10月に授業を見合う機会を設けたりして、考え議論する道徳の実践を進めていく。
	【次期(→次年度)】

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 基本的学習習慣	(7)主体的・協働的学習態度の育成	南中学生学習のきまりの徹底、3つの「あ」の実践	2	2
		PDCAサイクルを意識した家庭学習への取組の充実		
7 確かな学力	(8)確かな学力を支える諸活動	南中ドリル、コラム学習、朝読書の実施、情報教育、「特別な教科 道徳」の実践	3	3
	(9)個に応じた指導	諸検査データの分析と活用、回復指導		

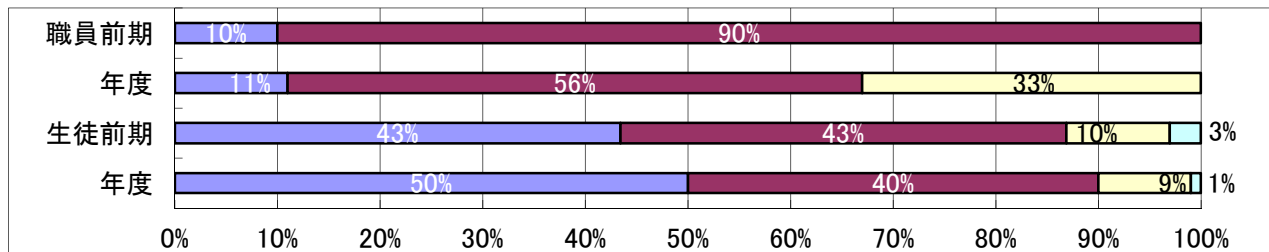
(7)に関するデータ

職員：生徒のPDCAサイクルによる家庭学習の充実を図るための支援を行っていますか。(2.9→2.3)
 保護者：お子さんは、PDCAサイクル(自分で計画を立て実行・評価し改善するサイクル)を意識した家庭学習に取り組んでいますか。(2.5→2.7)
 生徒：あなたは、PDCAサイクル(自分で計画を立て実行・評価し改善するサイクル)を意識した家庭学習に取り組んでいますか。(3.1→3.0)

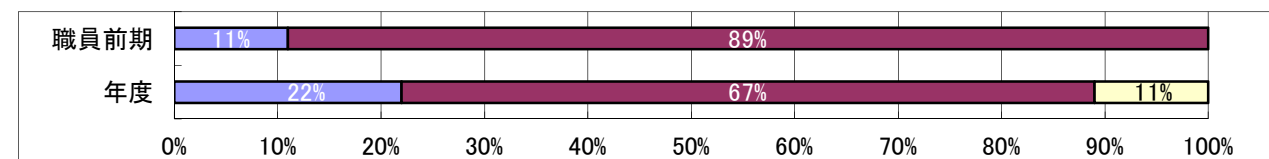


(8)に関するデータ

職員：確かな学力を支える諸活動(南中ドリル・コラム学習・朝読書)が効果的に行われていますか。(2.9→2.8)
 生徒：南中ドリルでは、学習内容の基礎・基本を身に付けることができているか。(3.4→3.4)
 コラム学習や朝読書で、自分の考えを深めたり、広げたりしようとしていますか。(3.2→3.4)



職員：「心に響く道徳の授業」や「考え議論する道徳の授業」に取り組んでいますか。(2.8→2.9)



■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない

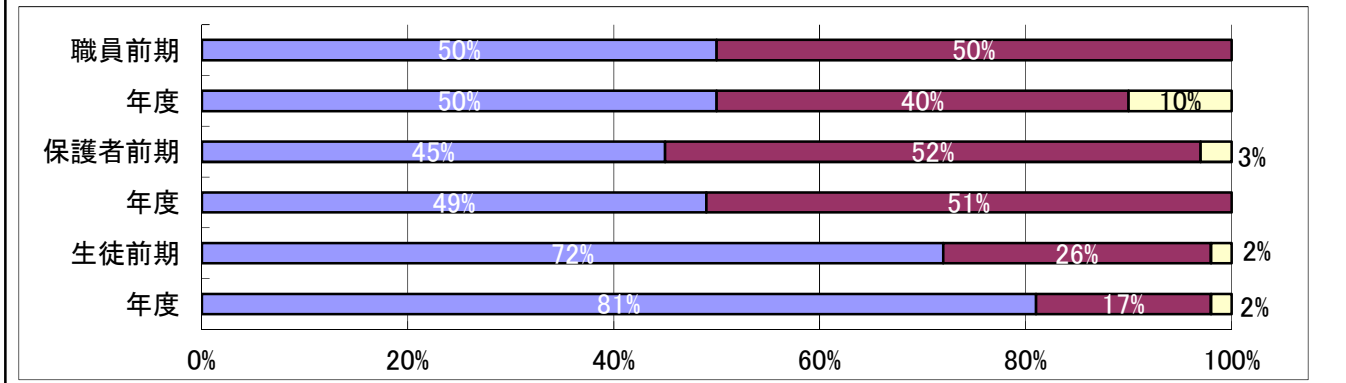
IV 保護者・地域との連携

学校の状況	自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント	
学校の取組を保護者や地域へ分かりやすく伝え、地域の教育力を有効に活用している。	前期	概ね良好	良好	地域の教育力を大いに活用した「チャレンジ55+」で南中生が生き生きと地域で活動している。その姿が、メディアを通じて他地区へも伝わり、農業や職場体験の報告会開催によって保護者にも伝わっている。学校報や学年通信、メールでの発信もよい。特に学校報の内容が充実しており、学校・保護者・地域とのつながりを強化している。
	年度	概ね良好	良好	地域の教材や人材を活用した取組が継続して行われている。そして、その活動の様子が保護者や地域へ学校報で丁寧で紹介されていて、よい循環につながっている。今後は、生徒自身が進んでより広いフィールドで活動する気概を育ててほしい。

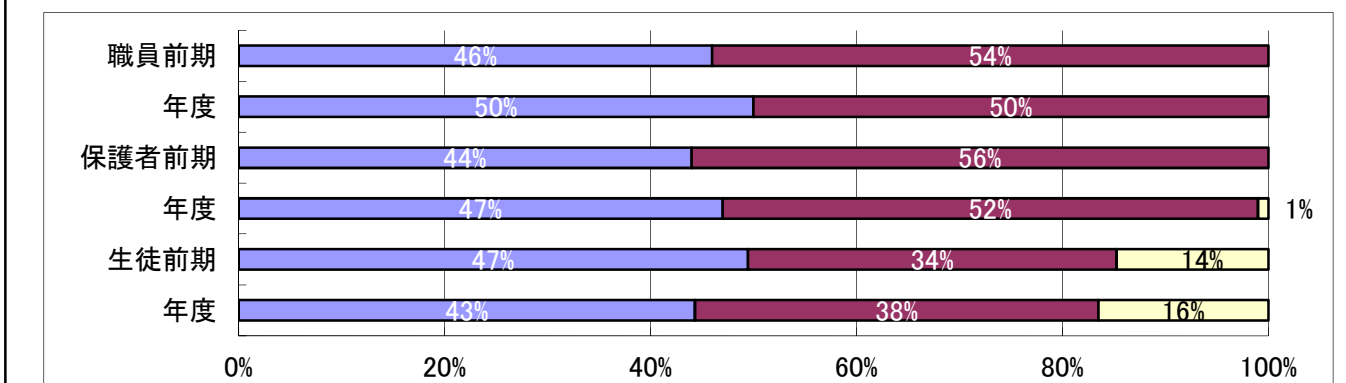
改善自己評価の概要と学校の	【前期(→年度)】
	8)については、学校の取組や生徒の様子をより具体的に伝えたこと、メール配信やHPも活用したことが高評価につながったと考える。今後も、諸通信等の役割を踏まえ発信方法を更に工夫していくよう努める。
	9)については、主にハチ公生誕100年プロジェクトを含む地域貢献活動「チャレンジ55+」への評価が高い。今後は、コミュニティ・スクールについて深く理解し、地域コーディネーターをはじめとする地域人材と積極的に関わる。評価の低い子どもハローワーク参加については、興味・関心が高まるような手立てを工夫し、より広く大館盆地の教育力を活用して生徒を育てられるよう努める。
【年度(→次年度)】	
8)については、大きな行事を紹介する学校報をカラー印刷で配付したこと、様々な取組を紹介した内容の工夫、学区内施設での掲示などが数値に表れていると考える。学年通信は隔週の発行だが更なる内容の充実への期待が、教職員の数値の低下に表れていると考える。	
9)については、保護者、学校運営協議会との連携により、様々な教育活動を展開できた。地域コーディネーターの協力により「チャレンジ55+」に加え、国語や音楽の教科指導でも地域人材を活用することができた。子どもハローワーク参加について、担当者が、興味を引くように工夫した方法で呼び掛けたが、参加者は冬休みに1名であった。この活動の趣旨について生徒だけでなく保護者にも説明したり、参加のための交通手段確保への協力を促したりしていく。	

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 情報の受発信	(10)学校と家庭・地域をつなぐ諸通信の発行	内容の工夫、地域施設での掲示、HPIによる情報発信、PTA会報の全戸配付	3	4
9 大館盆地の教育力の活用	(11)保護者・地域と連携した教育活動	南中PTAの日、PTA講演会等の実施、学校運営協議会との連携	3	4
	(12)地域人材の効果的な活用	地域コーディネーターとの連携、子どもハローワークや地域行事参加の推奨、地域貢献活動の推進		

(10)に関するデータ
 職員： 学校報や学年通信、HP等で、保護者・地域に学校や生徒の活動の様子を効果的に伝えていきますか。(3.5→3.4)
 保護者： 学校報『小石台』や学年だより、HPなどを通して、学校や生徒の様子が伝わっていますか。(3.4→3.5)
 生徒： 学校報「小石台」や学年だよりを通して、学校や生徒の様子が伝わっていますか。(3.7→3.8)



(11)(12)に関するデータ
 職員： 地域や保護者との連携を大切に取組を行っていますか。(チャレンジ55+、PTAや地域での活動等)(3.6→3.5)
 地域の教育力を生かした人材活用、関係団体との連携協力体制が機能していますか。(3.3→3.5)
 保護者： 地域貢献活動、子どもハローワークなどは、心の成長や今後社会で生き抜く役に立っていると思いませんか。(3.4→3.4)
 学校は、保護者や地域との連携を大切に取組を行っていますか(PTA、地域での活動等)(3.4→3.5)
 生徒： 職場体験、企業訪問、チャレンジ55+などの地域貢献活動などを通して自分の生き方を考えられましたか(3.6→3.5)
 子どもハローワークや地域の行事に参加しましたか。(2.8→2.9)



R5年度
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない

V 組織・運営

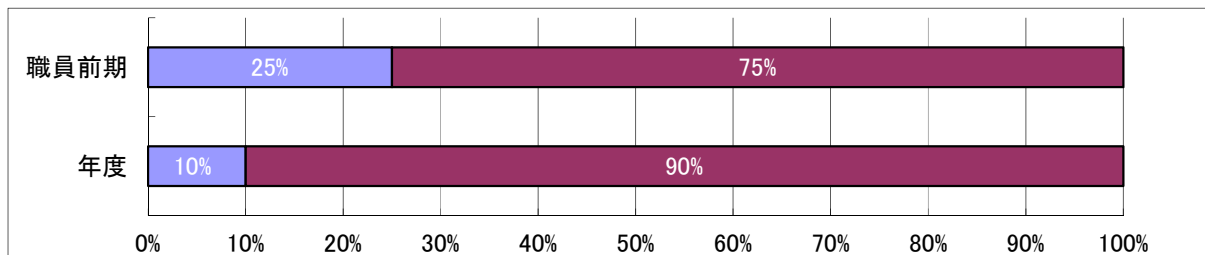
学校の状況	自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
「自律」「共生」をキーワードに特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期	概ね良好	「3つの〇〇」など分かりやすいスローガンを掲げ、その実現に向けて積極的な取組が見られる。小規模校で、職員が一人何役も仕事を抱えているが、互いに助け合い健康でがんばってほしい。元気な先生方のもとで子どもたちも成長できる。また、事務職員の適切かつ迅速な仕事ぶりが、学校運営に大きく貢献している。
	年度	やや不十分	概ね良好 協働体制による共通実践事項は示されているものの、共通理解のもと具体的な実践がされているかという点、職員にとっては、前進があまり感じられない、物足りなさ、マンネリ感を感じる、ということだった。課題となる点に具体的にどう取り組むのか、今後に期待する。

改 善 策 の 概 要 と 学 校 の	【前期(→年度)】
	昨年度前期との比較によると、(13)は上がり(14)は下がっている。職員の自由記述を踏まえ、声を上げて話し合うことで改善したり新しい方法に取り組んだりし、組織の機能を充実させて運営していきたい。 会計に関することや施設設備管理は非常に良好であると捉えている。事務職員の積極的な学校運営への参画に感謝しながら、今後もコミュニケーションを大切に連携し、丁寧に確認しながら効率的かつ適正に事務処理、設備管理を進めていきたい。
	【年度(→次年度)】
	10については、いずれも前期より評価が下がっている。これを改善に向けた課題意識の向上と捉え、しっかり時間を確保して具体的な取組について協議したい。働き方改革の真の目的(子どもたちへのより効果的な教育の実現)という視点で、業務改善に取り組む。教職員個々の考えではなくチームとして統一した方針を確認し、決めたことは全員で確実に取り組む共通実践を進めていく。 11については、限られた予算で工夫しながら設備管理を行っている。不具合が発生したときの対応も迅速である。老朽化の著しい校舎・校地であるが、教育委員会と連携し、PTAや学校運営協議会の協力も得ながら、維持管理に努めたい。予算管理は適正であり、これを継続していく。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
10 組織的な学校運営	(13)運営方針の浸透と主体的参画	経営方針・重点の明示と共通理解、目標達成のための職員の挑戦とチーム力の向上	3	2
	(14)PDCAサイクルと働き方改革を意識した経営改善	日常的な改善意識、前例にとらわれない個々の意識改革と創意工夫		
11 事務職員との連携	(15)事務処理の効率化・適正化と設備管理	事務職員との連携、定期的な点検による設備管理及び予算管理の適正化	4	4

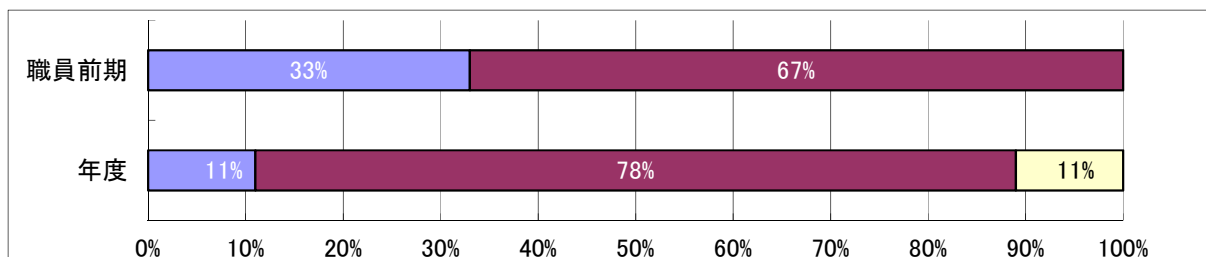
(13)に関するデータ

職員：経営方針や重点施策の具現を目指し、効果的な組織運営、協働体制による共通実践が行われていますか。
(南中スローガン「あいさつ・拍手・歌声」、3つの「あ」など) (3.3→2.8)



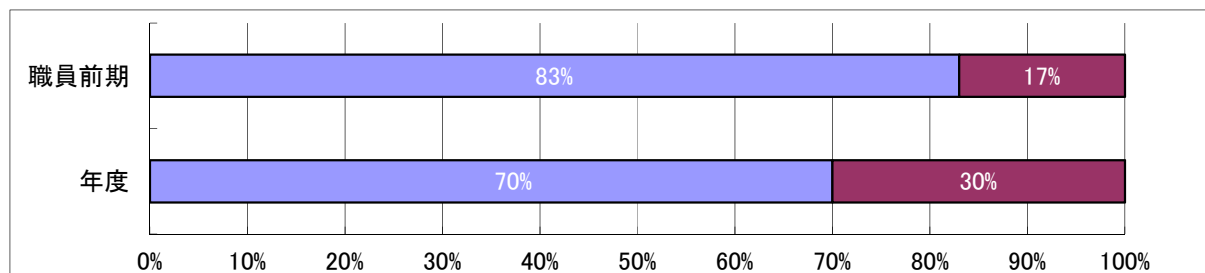
(14)に関するデータ

職員：PDCAサイクルを意識した学校運営により、働き方改革や業務改善が行われていますか。(3.3→3.0)



(15)に関するデータ

職員：事務職員との連携により、私費会計の適切な執行や事務処理負担の軽減、施設設備管理等が定期的に行われていますか。(3.8→3.7)



■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない

VI 特色ある教育活動

学校の状況	自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント	
地域に根ざした特色ある教育活動に、誇りと気概をもって取り組んでいる。	前期	概ね良好	良好	伝統の体育祭、南中祭、激励会などが非常に充実した様子で、達成感を感じている生徒や子どもの成長を感じている保護者が圧倒的に多く、喜ばしい。教育課程においても、南中ならではの地域力を積極的に導入していることが強く感じられる。引き続き、よりよい継続、先生方の指導・支援に期待する。
	年度	概ね良好	良好	地域の特色を生かした活動に、生徒の成長を感じるし、実際に達成感も大きいようだ。ハチ公生誕100年の取組にも、生徒の主体的活動が見られた。

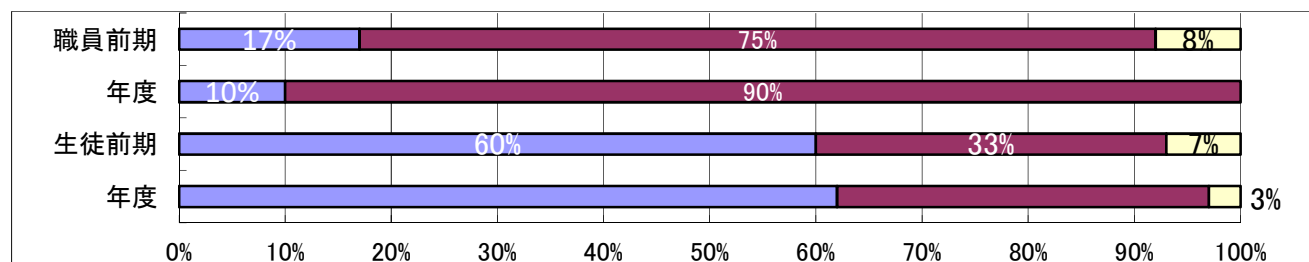
校 自 己 改 善 策 の 概 要 と 学	【前期(→年度)】
	今年度は毎週水曜日を2日課、清掃なしとし、生徒が早く下校できるようにした。教師も生徒も時間的な余裕ができて放課後の時間を有効につかえたと思う。週案の提示が遅くなってしまったので早めに提示し、活動の見直しをもてるようにしていきたい。 行事に関しては、体育祭では練習時間を確保し、生徒がしっかり活動できたが、実行委員会の機能は十分でなかった。教師間の共通理解をしっかりとし、生徒への指導や支援をしっかりとできるようにしていかなければならない。学校祭については実行委員会を開催し計画的に進めているところである。
	【年度(→次年度)】
	南中祭の活動は、教師の指導の下、生徒の実行委員会を中心とし生徒主体の活動となったことで、生徒全員が達成感を得たようである。他の行事や活動でも達成感を得るためには教師の指導が重要である。そのために開催要項は紙媒体で事前配付し教師が活動目標等をしっかり理解した上で生徒への指導を行っていききたい。また、各教科の授業時数を確保しながら、南中祭やチャレンジ55+での生徒の活動時間を十分に確保できるように時間割などの工夫をしていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
12特色ある教育課程の編成	(16)創意ある教育課程の編成	創意ある教育課程と生徒の活動を支える週案の提示、日課の効果的な運用	3	3
	(17)会議の精選と各担当との連携	年間予定を見据えた会議の調整と提案事項の事前確認、各分掌・各学年との連携		
13学校行事等の計画	(18)感動を呼ぶ学校行事の実現	計画的な行事実行委員会の実施と共通理解の段取り	3	4

(16)に関するデータ

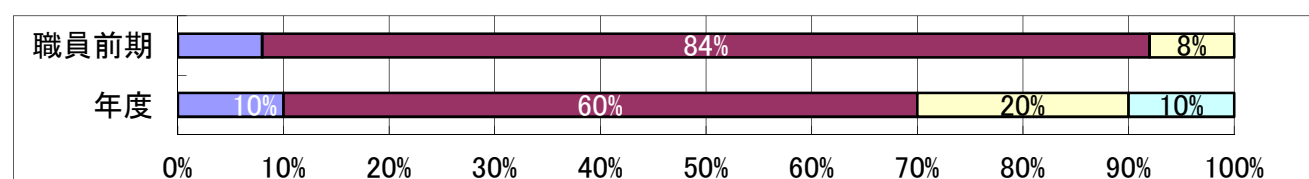
職員：創意ある教育課程が編成・実施され、授業時数の確保、諸行事の精選と工夫など、効率的な取組がされていますか。(3.1→3.1)

生徒：日課は、自分たちの活動時間を保障するものでしたか。(3.5→3.6)



(17)に関するデータ

職員：各分掌や担当との調整を図り、年間予定を見据えた会議の調整や資料の事前確認がなされていますか。(3.0→2.7)

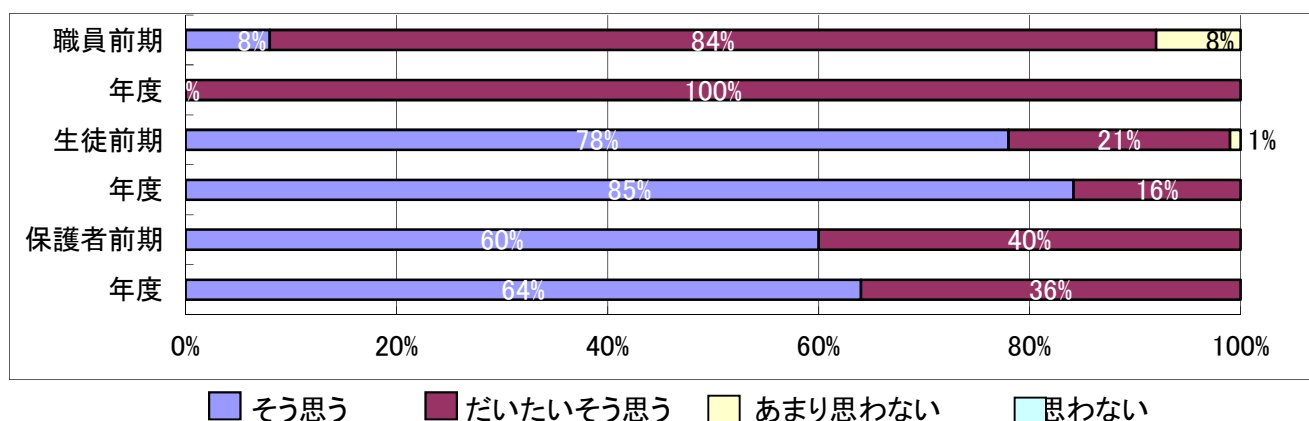


(18)に関するデータ

職員：行事実行委員会が有効に機能し、職員の共通理解のもと、感動を呼ぶ行事が行われていますか。(3.0→

保護者：学校行事(南中祭、激励会など)が効果的に行われ、生徒の成長につながっていると思いますか。(3.6→3.6)

生徒：学校行事では自分の役割を果たそうと努力し、達成感を感じることができましたか。(3.8→3.8)



Ⅶ 教師の研修

学校の状況		自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
学校の教育活動の向上のために、教職員の研修が活発に行われている。	前期	概ね良好	概ね良好	生徒は、見通しをもって授業に臨んでいるようなので、「直耕タイム」の更なる充実を期待する。生徒同士の意見や思いをコーディネートできる授業づくりのために、より一層の研鑽を望む。少ない教職員数ではあるが、お互いの授業から多くのことを学び、アドバイスや指摘をし合い、よい方法を取り入れ、生徒のために授業改善を進めてほしい。
	年度	概ね良好	概ね良好	

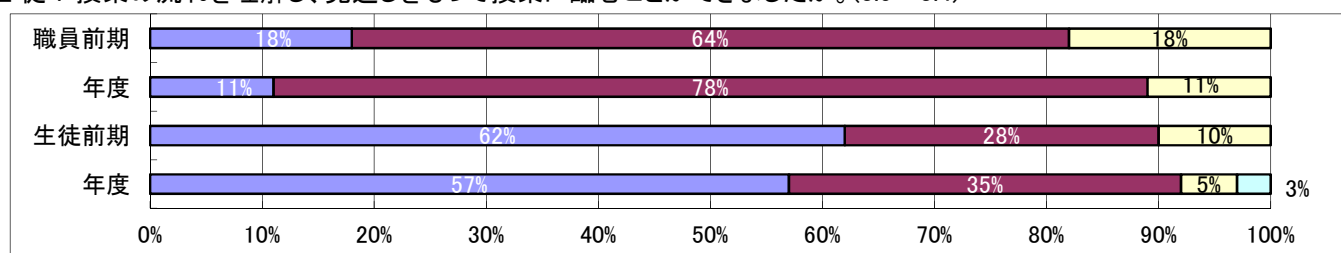
学自 校己 の評 改 善の 策 概 要 と	【前期(→年度)】	「学習プロット」の活用や「直耕タイム」等、全教科共通で「南中型授業」を進めることで、生徒の評価が昨年度よりも上がった。「授業構想シート」を全職員で活用することで、それぞれの教科の「直耕タイム」の充実について考える機会を設けることができた。今後は、教師・生徒同士の「授業を見合う会」を定期的に設定し、他教科の実践からも学び合い、授業改善に生かしていきたい。
	【年度(→次年度)】	9月に生徒の「声量」について、11・12月には教科及び道徳の授業における学び合いについてⅡ期に分けて「授業を見合う会」を設定し、教師同士学び合う機会を設けた。そこから、直耕タイムでは全ての生徒の考えや声を生かして進めていかなければならない、という課題が見えてきた。今後、生徒一人一人が主体的に取り組むための仕掛けや授業の進め方を共通理解し、進めていく必要がある。また、集会をする際にも、教師が見通しをもちそのための事前指導を丁寧にしていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
14 授業改善の推進	(19) 主体的・協働的に活動し、学びを深める授業づくり	生徒が見通しをもち学び合う場の設定(学習プロットの活用、板書の工夫、呼び合い話し合い) ゴールの姿から逆算したコーディネート(「直耕タイム」の充実、振り返りの工夫等) 各教科の研究主題と重点の設定と実践	3	3
15 研修の実施及び活用	(20) 「チーム南」の資質向上を目指した研修の充実	全員参加型の校内研究会の推進及び相互授業参観の実施 学年部・指導部・教科部等におけるOJTの推進	3	3

(19)に関するデータ

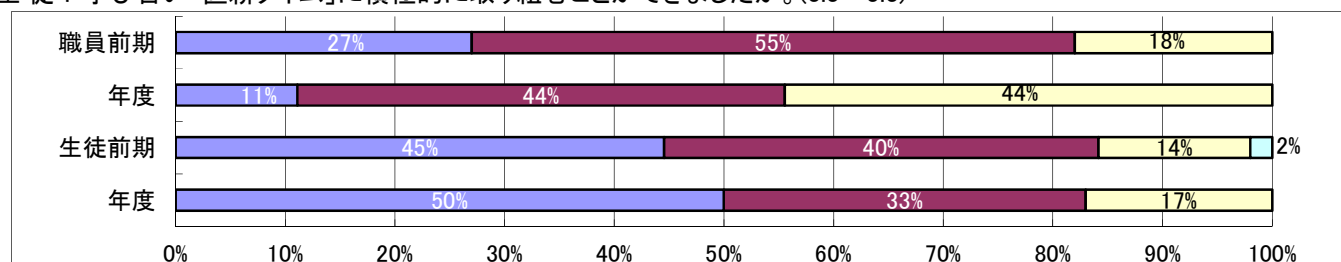
職員：課題設定や学習プロット等の活用により、「めあて(課題)とふりかえり」のある探究型授業を展開していますか。(3.0→3.0)

生徒：授業の流れを理解し、見通しをもって授業に臨むことができましたか。(3.5→3.4)



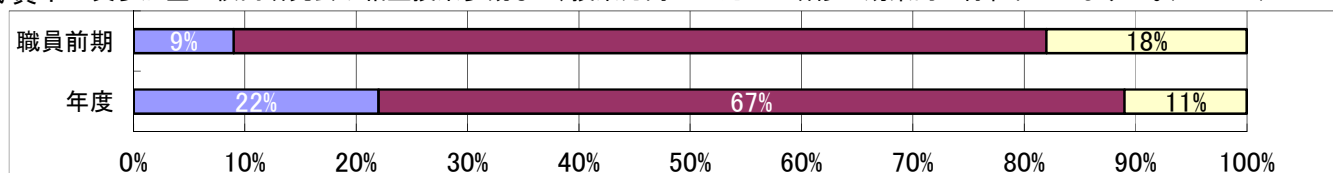
職員：「直耕タイム」の充実を図り、学びを深めたり(深化)、学びを高めたり(進化)することができていますか。(3.1→2.7)

生徒：学び合い「直耕タイム」に積極的に取り組むことができましたか。(3.3→3.3)

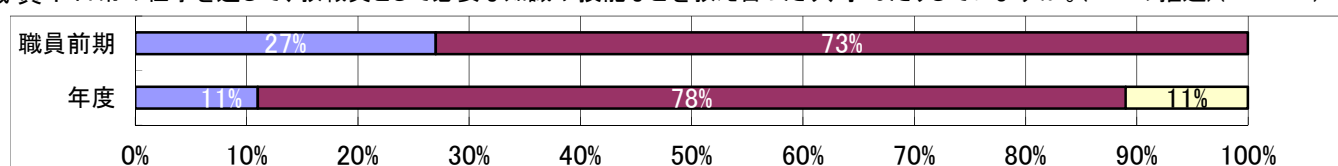


(20)に関するデータ

職員：全員参加型の校内研究会や相互授業参観など、授業力向上のための研修が効果的に行われていますか。(2.9→3.1)



職員：日常の仕事を通して、教職員として必要な知識や技能などを教え合ったり、学んだりしていますか。(OJTの推進)(3.3→3.0)



■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない